

# 瓦礫をバイオマス資源に

## 復興構想反映へ提言

岩手大学 岩手県コンソーシアム

中国地域5県の大学等  
を中核に地域が抱える課  
題に対して産官学協同の  
取組みを展開する中国地  
域産官学連携コンソーシ

アム(通称・さんさんコ  
ンソ)と岩手大学はこの  
ほど、震災で大量に発生  
しているがれきを木質系  
バイオマス資源として活

用する東日本大震災復興  
構想の提言をまとめ達増  
拓也岩手県知事に提出し  
た。同コンソーシアムで

は、かねてから森林系バ  
イオマスの活用による地  
域活性化の研究を進めて  
いたところ。しかし、今  
回の大震災により大量の  
がれき処理が問題となっ  
ていることから、崩壊家  
屋や流木といった木質系  
のがれき処理にこれまで  
の研究が活用できるので  
はと着目。被災地に立地  
する岩手大学と連携を図  
り、東北地域の固有性に  
着目した取組みを含めた  
復興構想の提案を行う運  
びとなった。

提言では、短期・中期  
・長期の各視点に立ち緊  
急雇用対策からスマート  
バイオマスタウン構想と  
いったソフト面を含めた  
対応策に踏み込んだもの  
となっている。具体的に  
は、被災地での廃棄物処  
理等に関連した雇用確保  
の推進として、崩壊家屋  
や流木などの木質系バイ  
オマス資源の活用事業の  
実施。国が被災地域を一  
時借上げし、土壌汚染対

策・海洋汚染回復事業を  
推進すること。

さらには、長期的な視  
点に立ち、崩壊家屋や流  
木を用いた木質系バイオ  
マス活用事業を発展さ  
せ、森林系バイオマスに  
よる電力・熱供給事業、  
有価物生産等を実施する  
スマートバイオマスタク  
ン構想の推進を提言して  
いる。特に、「健全な森  
は健全な海を育てる」こ  
とを念頭に、震災復興計  
画における街づくりの、  
初期から長期にわたるエ  
ネルギー政策の具体策と  
して、熱供給配管などの  
敷設を実施することが重  
要であるとした。